

映画にもなった

桜田門外の変

こんにちは地歴新聞です。今回私たちは、映画化された桜田門外の変について特集したいと思います。

そもそも桜田門外の変がおきてしまった原因というのは、幕末の一八五八年（安政七年）江戸幕府の大老だった井伊直弼が開国に積極的であり天皇の勅許を得られないままアメリカと「日米修好通商条約」を締結してしまったからです。

この条約には米国に治外法権があり日本に関税自主権がないという、いわゆる不平等条約であり、一方的な最悪待遇とともに、明治政府の大きな外交上の課題となりました。

桜田門外の変が起こった一八六〇年三月三日は季節外れの大雪で視界は。そんな中、井伊直弼を乗せた籠が外桜田の藩邸を出て江戸城へと向かった。その途中、水戸藩士など十八名が襲撃し、最初に発砲したピストルの弾がいきなり井伊直弼に命中した。それにより井伊直弼は重傷を負い、動けなくなってしまう。その隙に襲撃者達は彼を籠から引きずり出し刀で斬首した。享年四十六歳だった。



その後

襲撃後、直弼を含めた八人が死亡し一三人が負傷した。それにより、幕閣主導型の体制と秩序を復活させ、朝廷の政治介入を阻止するという思惑は、もろくも崩れさった。さらに水戸藩徳川家と譜代筆頭の彦根藩井伊家が仇敵となり、幕府政治の安定性が損なわれ、長年持続した江戸幕府の権威も大きく失墜した。その影響で尊王攘夷運動が劇化するとより実力行使の血なまぐさい騒乱の時代が幕を開けることになった。

社説

桜田門外の変はすでに中学校の授業で習っていましたが、こうやってより深く調べたことにより井伊直弼という人物が今の日本にどれだけの影響を与えたのかよくわかりました。

佐和高校 地理歴史部 地理歴史室にて絶賛部員募集中！